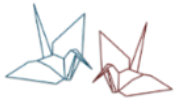




未来に向かって伸びる鶴嶺の子

鶴小だより 7月号

茅ヶ崎市立鶴嶺小学校
校長 日高 大司郎
令和4年6月30日発行



「困った子」は、困っている子！

教職員として、子どもたちと関わっていると、一人一人様々なものを抱えて登校してきているのを感じます。その中で、学校生活に不適應な行動を示す子どもは、必ず自分の生活のどこかしらに深刻な不満足感をもっています。(発達に偏りがあり、適應が難しいケースもたくさんあります。)それは、家庭での保護者の皆さんとの関わりかもしれないし、学校での教職員との関わり、友だちとのトラブルかもしれません。場合によっては、虐待ということもあるでしょう。

僕が担任した学級で、こんなことがありました。ある児童が、「机に悪口を書かれた」と訴えてきたのです。学級指導をして、一応学年の先生方とも共有し、保護者の方にも報告とお詫びをしました。

しかし、明るる日もその次の日も、またその次の日も、訴えは続きました。管理職にも報告して、そのたびに保護者の方にも連絡しました。その子の席を前に移動して、人をつけてもらって、休み時間も教室にいるようにしました。でも、誰が書いているのかは、分かりませんでした。そんな状態で一ヶ月位が経とうとしたころ、授業中にその子が手と教科書で隠しながら、机に何かを書いている姿を見つけました。「何を書いているの？見せて」と言っても、その子はぎゅっとそこを押さえたままです。そうです、自作自演だったのです。僕は半泣きになっているその子がどんな気持ちで書いていたのかを思うと、無理矢理手を払って証拠を見る気持ちにはなれませんでした。

その子どもは、きっと、このことを起こしてからずっと、お母さんが自分を気にかけてくれたことがうれしかったのでしょう。心がつながったと感じていたのではないかと思います。裏を返せば、お母さんの愛情を、十分感じることができていなかったのだということです。

この子のしたことは、褒められたことではありません。しかし、このように深刻な不満足感をもっている、言い換えれば、「心が元気」でないお子さんは、「正しいとか正しくない」ということよりも、「自分を守る」ための行動をします。結果、それが不適應な行動になるのです。

公立の小学校では、それぞれ色々な子どもが通ってきています。だから、教室の中では、30人いれば、30人の都合で発せられる言葉や行動が交錯することになります。心が元気な、満足感もしっかりもっている子どもばかりなら、問題は起きないかもしれませんが、実際は、その子が抱える

深刻な「不満足感」が、友だちとの間で問題を生むことにもなるのです。彼らは、まわりに迷惑をかけることがあります。理不尽なことをお友だちにしてしまうこともあります。それで、困った子だと見られがちです。

では、問題を起こす子はダメな子でしょうか？自分の子と関わらせてはならないような存在でしょうか。そんなことは断じてありません。困った子は困っている子であり、友だちからたくさんの援助とまわりの大人から、たくさんの愛情を注がれるべき、注がなければならない存在です。すべての子どもたちは、よりよく伸びようとしているのです。僕はそれを、微塵も疑っていません。彼らが抱えているものが大きければ大きいほど、周りの大人たち一人一人の関わりが大切になるのです。

僕たちの社会が、排除の論理で動いていいはずがありません。様々な違いを認め、その差違を受容し合えなければならぬと思っています。学校という場が、それを求める最先端でありたいとも考えています。(まだまだですが。)

僕ら教員は、その不満足感にスポットをあて、根本的な解決ではないけれど、授業の中で、それ以外の時間でもひたむきにその子に関わり、ほんのひとかけらでも満足して下校できるように、努力しています。そして、そういった子を包み込める集団づくりをめざしています。この学級集団が、その子を成長させ、同時に周りの子をもぐっと大きくするのです。

そうは言っても、実際にご自分のお子さんが・・・。という状況になったら、心配ですよね。いつでも担任にご相談ください。保護者同士でつながってください。互いに子育ての悩みを共有してください。「困っている子」は、育てにくいお子さんでもあつたりするのです。同じ子育ての仲間がいるだけで、どれだけ心の支えになるでしょうか。きっと、親同士がつながることが子どもたちのつながりにもよい影響を与えます。

子育ては突き詰めればとてもシンプルな営みなのではないかと思っています。たっぷりの愛情を相手に伝わるように注ぐ。そして、頑張っていることを褒め、間違ったことはおかしいよと伝えること。それだけでいいように思います。けれど、愛情がうまく伝わらなかったり、きちんと褒め認めることができなったり、叱るのが行為でなく行為主体(本人)になってしまったりしがちです。シンプルだけれど、難しい。鶴嶺のみなさんと一緒によりよい子育てを目指したいものです。